

原風景が残る八田

はった 八田町へ

七尾市の南、石動山系の山麓、御祓川の支流笠師川の上流部に位置する八田町。いわゆる中山間地域で、棚田の景観を活かしたまちづくりに取り組んでいる。

小雨が降る5月下旬、棚田へ向かうことにした。国道159号線から町に入っていくと、真っ先に新緑の山々が目に飛び込んでくる。山の方に吸い込まれるようにまっすぐ



と伸びる道路の両側には、田植えを終え、水をたつぷりと蓄えた田が一面に広がっている。右手奥には、徳田小学校、さらに上に進むと左に寺院が見えてくる。乗龍寺である。そのちようど後ろあたりに、ぼつこりと飛び出た尾根があるのがわかる。これは、通称城ヶ峰とよばれる砦の跡である。七尾城の砦跡であると言われている。この場所は、鉢を伏せたような形をしているので、鉢伏山とも言われているらしい。

さらに集落の中入っていくと、棚田への入口が見えてくる。このあたりは、子どものころよく通った懐かしい場所である。ここは母の生まれた地であり、小さい頃は、夏休みなどによく遊びにきた。そのころは、なんと急で狭い坂道なのかと思つたものである。しかし、いまでは、この風景が貴重な七尾の風景の一部なのだと感じることができ

八田の棚田

棚田へ向かう入口には「八田の棚田」という小さな看板が立っている。川のせせらぎを聞きながら、坂道を登っていく。さらに急になり、曲がりくねった道を登っていくと、斜面に田が広がってきた。三叉路につきあたると、二つ目の看板が立っている。矢印どおりに右折するところで、耕運機を運転するお年寄りが前を通り過ぎていった。うしろをついていくように登っていくと、見晴台のようなところに差しかり足をとめた。





振り返ると、田が幾重にも重なったように広がっている。

その向こうには、七尾中心部の町並みと七尾南湾、その先には、能登島を望むことができる。今まで、何度となく訪れていたこの町にこんなに素晴らしい景色があるとは、知らなかった。晴れた日には、田の水面が光り輝きその後ろには、青く澄み渡った空と海を望むことができる。

私たちの先祖がこの地を切り開いてくれたおかげで観ることができ景色である。清々しい初夏の香りがわずかに漂った。

心に残るふるさと

この日、棚田において、八田町の子どもたちによるモチ米（カグラモチ）の田植えの体験学習が行われた。今年で4回目になるという。あいにく雨であったが、子どもたちは、裸足で田んぼに入り、

子どもたちが餅つきをし、みんなで食べるそうである。

楽しそうに泥に汚れることを気にすることもなく、田植えに取り組んだ。秋には、稲を収穫し、ハザに掛けて天日干しにする。12月には、子



子どもたちの姿を見ていると、自分が小さいころ祖母に連れられて、田植えや稲刈りを手伝った記憶が甦ってきた。昼には土手に座り、おにぎりをほおぼった。



このような体験が、後々、子どもたちのふるさとを愛する心を育てるのだろう。この子どもたちが、大人になったときに、この景色を守っていきたいと思ってくれることを願っている。

もし、この地を離れる事になっても、田植えをした思い出とともに、この棚田からの七尾の美しい景色を思い出してほしい。

今では、大変貴重な棚田の風景、そしてふるさとの景色を子どもたちに残して行かなければならない。ふるさとはいくつになっても私たちの心に残っているものである。



周辺マップ

八田の蛇池

八田町の伝承に「八田の蛇池」という雨乞いの民話がある。その池には、昔、大蛇が住んでいたといわれ、村人が雨乞いをした場所、雨乞い沢と呼んでいるそうである。

そのときの雨乞い儀式に行われた太鼓は「龍神太鼓」として、今に伝わっている。

来る7月23日（日）、民話の再現が八田町龍神太鼓「志龍会」によって、蛇池近くの太鼓打ち場で行われる。

太鼓打ち場は、集落の外れにある山道を860m入った、標高226mの尾根の先端部分にある。蛇池へは、太鼓打ち場のすぐ脇の崖を88m下りると到達する。

